

学校評価アンケートのご意見に対する回答

- いつもお世話になっています。
- 楽しく過ごせています！！
- 先生方みなさんに子どもたちが見守られていることを知り、とても感謝しております。ありがとうございます。
- 先生の良い面の性格がもっともっと伝わればと思います。
→ありがとうございます。今後もすべての児童が日々、安心・安全に楽しく元気に過ごせるようにと願って教育活動を進めていきます。

- 昼休みに学年問わず校庭で遊べたら良いなと思います。
→児童の体力向上もめざし、本校では、登校後、昼休みの外遊びについても奨励をしています。児童が安全に遊ぶことができるように考慮し、サッカーやキックベースなどボールを蹴る遊びについては、曜日によって学年を指定しています。それ以外の遊び(鬼遊びなど)については、学年問わず昼休みに校庭で遊ぶことはできます。
また、体育委員会による「体力向上ラリー」の企画を行い、期間を決めて、学年ごとに「的あて」、「ドッジボールフェスティバル」などの取組を行っています。今後も「クラスで長縄」「GoGo ランニングタイム」に取り組む予定です。

- 毎回アンケート回答でいじめ問題や取組について回答がありますが、実際の所は学校生活を毎日見ている訳ではない保護者からは、答えにくいです。いじめ問題についても、いじめにあった場合にしか学校側の対応はわかりかねますし、回答に少し困る部分はあります。
- いじめや例えば友達同士のけんかに学校側、先生方が真剣に向き合われているのか、実際見えない部分もあり、疑問に思う部分もあります。第三者で関係ないという気持ちもよくないのでは？と思うときもあります。子ども同士のことなので、どこまで本当のことかわからないとは思いますが、思いやり、自分の子ども、親だったらどう思うか、どう対応するかを考えて動いて頂けると、親として子どもを預けている側としては、安心だと思います。
→学校においては、「いじめは絶対に許されないことである。」という方針で、児童が安心・安全に過ごすことができるように児童の学校生活の様子を全職員が一丸となって見守っています。また、年3回のいじめアンケートを保護者・児童を対象に行い、学校生活において児童が人間関係など困っていることはないか、その把握に努めています。児童同士のトラブルが起こったときを含め、アンケート実施後は、児童一人一人と個別の面談を行い、事実確認や思いを聞き取りながら、問題の解決や学校生活における不安を解消できるように取組を継続しています。

- 現在バスケに月2回参加していますが、他の学校のように時間をとって、試合に出れるようにしてほしいです。
→ミニバスケットボール教室は、安中地区青少年健全育成会の事業の一環として開催しております。試合や大会への参加を前提しているものではありません。どうぞご了承ください。
なお、本校の体育館や運動場を利用して活動しているバレーボールやサッカー、陸上については、「社会体育」としての活動に位置づけられており、地域の指導者を中心に、地域社会・家

庭等で行う体育活動です。

- 6年生の修学旅行の行き先を2つか3つから選ばせて欲しかったです。もう決まりましたでは、変更出来ないし、せっかくの修学旅行なのに楽しみが全くありません！
→修学旅行は、6年生にとって最も思い出深い学校行事の一つです。修学旅行は学校教育活動の一環として学習指導要領に位置付けられております。同じ学年の仲間と共に過ごし、友情を深めつつ、団体行動でのマナーや見学先でのエチケットなどを身に付けるとともに学習したことを生かし、確かめる機会です。学校においては、修学旅行の意義と目的を考慮し、目的地や見学先を決定しています。6年生にとって小学校生活での楽しい思い出の一つとなるように進めています。趣旨についてご理解とご協力をお願いいたします。
- ホームページで日頃の様子が見られるようにしてもらえたら嬉しいです。
→現在は、主に行事予定などを中心にホームページを更新しています。日頃の教育活動については、学校だよりや各学年・学級通信にて適宜発信しています。今後もホームページでの教育活動の発信については、個人情報や肖像権の侵害がないように、慎重に取り組んでいきたいと考えています。
- 体育館の時計の修理をお願いします。
→故障の原因を特定することができ、いったん修理し、稼働しておりました。しかし、再度、故障したため、業者に発注し、修理に必要な部品を取り寄せていました。9月29日に修理が完了しました。大変ご心配をおかけしました。
- 入学前までは本が大好きでしたが、毎日本3冊のノルマが課せられてから本嫌いになりました。字を読む練習だとは理解していますが、読書に限ってはノルマではなく、もう少し個人の能力や好みに合わせて、楽しく読める雰囲気作りをして頂きたかったです。
- いつも娘をご指導いただき感謝いたします。図書室の本を毎日3冊借りてきますが、少し負担が大きい気がします。毎日持ち帰るのが重いのもそうですが、3冊読む、というのが子供にも親にも一種のこなし仕事みたいになっている気もします。本に触れる、というのが最優先課題であるならば問題ありませんが、3冊本を選ぶのも限られた時間では難しいのかな、という印象を受けます。
→読書については、学校教育活動アンケートにおいて保護者の方からの肯定的割合が毎年、低い項目の一つでもあります。そのような状況を改善するため、低学年のうちから最大限、本に触れる機会を作るように努めております。日頃からいつでも本を手にとれるような環境をつくること、文字に触れ、言語能力をコツコツと高めながら児童のよりよい人生を作るための土台となる学力の基盤を築くという観点から、毎日図書室へ行き本を借り、学校や家庭にて読むように指導しています。しかしながら、読書に向かう児童の意欲も大切ですので、負担にならないように、読書を推進していくようにしていきます。
- 2年生になって急に授業についていけなくなった。授業がわからないままドンドン進んでいるみたいで…2学期からかけ算が始まるのにとっても不安です。

→学年が進むにつれて学習内容が少しずつ増え、学習が進んでいくペースも速くなっていきます。特に2年生では、算数科において、かけ算九九が重要な学習内容となってきます。児童全員が確実にかけ算九九を身に付けることができるように学級担任を中心にご家庭に協力を得ながら定着を図っていきます。学校においては、学習内容の定着につまずきがあれば、可能な限り個別指導や学習支援員による支援を行うなど、児童一人一人の学習内容の定着に向けて取り組んでいるところです。学習内容の理解についてご心配等がありましたら、いつでも気軽に学級担任にご相談ください。

• プリント配布が多い。環境のために電子データでの配布に変えてほしい。

→学校から配布する文書については、学校行事等に関する文書を始め、学校・学年・学級便りなどがあります。また、様々な関係機関からイベント案内やチラシなどの配付依頼があったものについて学校を通じて配付しています。ご意見にもありますように、学校としても今後、紙資源の節約も含め、可能なものについて五小安心メールの活用などデジタルデータでの文書の配布方法も研究と検討を進め、試行をしていきたいと考えています。

• タブレットの持ち帰りを週末実施してほしいです。台風での臨時休校の日も、持ち帰ったクラスとそうでないクラスがあったようで、5年2組は持ち帰らなかったのが良いなと思ってしまいました。紙で勉強するのが好きな子、タブレットだとやる気が出る子、それぞれあると思います。Wi-Fi環境がない家庭などの問題もあるので、全クラス持ち帰りが難しいことも承知ですが、是非タブレットを活用した宿題などを出してほしいです。

→タブレット端末については、校内において学習内容の定着、調べ学習などにおいて活用を図っています。タブレットを活用して学習を行うことで児童の学習意欲を喚起する側面もありますので、より効果的な活用について研究をしているところです。また、タブレットの持ち帰りについては、家庭学習において必要な場合を考慮し、実施をしています。タブレットを活用した宿題の出し方についても教職員の研修を深め、効果的に実施できるように研修を深めていきます。タブレットの持ち帰りについては、今後も「何のために持ち帰らせるのか」目的を明確にし、機会をとらえて実施できるように研究していきます。

• 薬の管理についてお尋ねです。

→お子さんがそのときの体調によって薬を服用しないといけない場合があるかと思いますが、原則として学校で薬をお預かりして飲ませることは、控えさせていただいております。学校教育活動を進めていくなか、薬の管理及びその服用については、学級担任での薬の管理は行き届きません。子どもでの薬の管理も難しく、ご家庭にて済ませていただきますようご理解とご協力をお願いいたします。

• 学校のエアコンの掃除の頻度を知りたいです。

→基本的には、暑さ対策における冷房でのエアコン使用前に、フィルターの清掃を行っています。清潔な運用ができるよう取り組んでいます。

• 今年から新しくなった見守り端末の見直しをしてほしい。

→島原市が業者と契約をして、今年度新たに導入した見守り端末です。ご意見については、島原市担当部局にお伝えしておきます。

- 言葉遣い、言葉選びがもう少しできたら、もっとよりよい五小になると思います。相手が嫌な気持ちになったり、傷つくような言葉を言われる方もいやだし、他の人がそういう場面を見てやっぱり嫌な気持ちになるから……。特に最高学年の6年生ともなるとどんな言葉が人を嫌な思い、傷つけるかわかっているはず。それをわかっているから使うのは非常に残念です。

→人は、基本的に「言葉」を用いて、他人とのコミュニケーションをとって生活をしています。学校においても友達には「くん」「さん」をつけて呼びのように、相手が嫌がるような言葉（ちくちく言葉）ではなく、相手がうれしくなるような言葉（ふわふわ言葉）を使うように、機会をとらえて指導を行っています。相手や場所に応じて、よりよい「言葉」を選び、遣うことができるような人に育ててほしいと願い、日々学校での指導を行っています。児童がよりよい「言葉の遣い手」として、健全に成長していくためには、家庭と学校が目標を共有し、児童を育てていくことが不可欠であると考えています。家庭と学校が協力し、タッグを組んで、繰り返し繰り返し、正しい言葉遣いについて児童への教育をしていくことが大切だととらえています。

- 義務教育下で、先生の発言することの重みを先生方には再認識していただきたい。マスクについては義務化されていませんのでたとえ推奨されていても、それを子どもたちに呼びかけること自体が問題です。子供の判断で苦しいのに外せない子供が多数います。子供がマスクを外していてもそれに干渉して「マスクをしてください」など子供に言うてはいけません。大人（先生）から言われたことは絶対でありそれから逃げることは子供は出来ません、これを強制と言わずなんといいましょう？ 学校が学校の体裁で教育を行っているように思います、子どもたちのことを最優先で考えていただきたいです。教室内でマスクはめて授業、こんなに暑いのにエアコン入れて窓開けるなんて何、考えてるんですか？ いい加減にコロナ脳から脱却してください。
- マスクについてです。国はマスクを強制していません。マスクをする目的、メリット・デメリットをそれぞれの家庭で話し合い、子どもたちがマスクをする、しないを選べるようにしてほしいです。する子もしない子も尊重してほしいと思います。

→本校においては、公立学校を所管している文部科学省、県・市教育委員会の指導の下、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」に示された「新型コロナウイルス感染症の対処に関する全般的な方針」に沿って、学校教育活動を進めています。

「マスクの着用」については、屋内において、他者と身体的距離（2m以上を目安）がとれない場合、他者と距離がとれるが会話を行う場合、屋外において他者と距離がとれず会話を行う場合は、マスクの着用を推奨する。屋内においては、他者と身体的距離が確保できる場合、他者と距離がとれない場合であっても会話をほとんど行わない場合は、マスクの着用は必要なく、特に夏場については、熱中症予防の観点からマスクを外すことを推奨する。と記されています。学校でのマスク着用については、上記のマニュアルに沿って、児童への指導を行っております。特に教室においては、どうしても身体的距離（2m以上を目安）を確保することが困難であるため、教室でのマスクの着用を指導しています。ただし、児童が息苦しさを感じたり、体調に変化を感じたりした場合は、マスクを外すように十分注意して進めています。気温・湿度や暑さ指数が高い夏場は熱中症防止対策として、登下校中及び体育科の授業（屋外・体育館問わず）、昼休みに運動場で遊ぶときにはマスク着用を外すように指導をしています。今後も文部科学省はじめ県・市教育委員会の指導の下、基本的な感染症対策を進めていきます。ご理解とご協力をお願いいたします。

- 児童が1年生から6年生まである程度名前を知っていて、〇年の△△くんや☆☆ちゃんと話をする場合があります。縦割り班の活動などで交流ができていますね。いつも感心しています。
→本校では、縦割り班での清掃を通して、教師と児童、児童同士の交流を深めると共に高学年のリーダー性を養い、異学年の中で互いに協力する態度を育てることに取り組んでいます。また「きらきら集会」では、ゲームを通して縦割り班での異学年交流を行いました。特に6年生は、1年生の入学当初から、最高学年としての自覚をもって、登校後の朝の学習準備や給食準備、昼休みに一緒に遊ぶなど積極的にお世話をしています。そのような活動の成果もあるのではないかと考えています。
- 挨拶を自分からする子が少ない、というかほほいない。自分の娘も含めて自ら挨拶をする。困っている人に躊躇なく声をかけるような子が増えるといいなと思います。
→本校では、「いつでも」「どこでも」「だれにでも」「笑顔で挨拶」「自分から」を合言葉に挨拶の励行に努めています。ご意見のとおり、「自分から」周囲の方々に挨拶ができるよう、挨拶の励行に努めていきたいと存じます。
また、児童の挨拶の声が響くようになるためには、長崎県のココロねっこ運動では、「大人が変われば、子どもも変わる」「できることから 大人から」との呼びかけがなされています。児童が大人となり人々とのよりよい関わりの中で自立して生きていけるように私たち大人がよきモデルとなり、児童の心の根っこをしっかりと育てていきたいものです。家庭と学校で協力して取り組んでいきましょう。
- 先日の常任委員会で正門の話がありました。やっぱり門ないですよ。卒業した姉2人も最近気付いたようです。素敵な門ができるといいですね。
→学校の大切なシンボルである「校門」が一日も早く実現できるように関係機関にお願いしていきます。
- 正直、一学期が過ぎたばかり、授業参観等学校に出向く機会もあまりなかったもので、評価しづらいところがあります。
→回答しづらい項目につきましては、未記入もしくは、「〇わからない」という回答も可能です。次回のアンケートにつきましては、評価が可能な項目について、ご回答ください。

たくさんの貴重なご意見、ありがとうございました。児童が安心・安全に学校生活を送り、落ち着いて学習に取り組むことができ、学校教育目標に掲げている「すなおさいっぱい かしこさいっぱい たくましさいっぱい」の児童を育てることができるよう全職員一丸となって、保護者の皆様と目標を共有し、日々の教育活動に努めていきたいと存じます。今後におきましても保護者の皆様の温かいご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。